

2021（令和3）年度

# 校内研究

## 目指す児童像

「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子

## 研究テーマ

～対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり～



明石市立二見北小学校

## I 研究テーマ

目指す児童像

**「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子**

研究テーマ

**対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり**

## II テーマ設定について

本校では、「言葉を大切にし、自分の考えを豊かに表現する子」という児童の姿に迫るために、2016(平成28)年度より、「話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり」というテーマのもと研究を進めてきた。一人学びで「言葉」にこだわり読むことで、自分なりの考えをもつことができ、その考えを話し合いで通わすことで、自分の思いを表現することができた。また、話し合い活動の中で生まれた新たな「気づき・発見」は、児童の考えをより深いものへと導いた。昨年度(2020年度)より本格実施された新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善が求められている。話し合い活動に焦点を当て、研究を進めてきた本校は引き続き、「対話的な学び」を深めていく手立てや方法を研鑽していかなければならない。それと同様に、「主体的な学び」を実現していくための単元づくり・授業づくりの工夫についても、より意識し取り組んでいく必要がある。また、新指導要領には国語科の目標として、「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」と明記されている。2020年度より明石市で採用された新教科書(東京書籍)においては、その育むべき資質・能力を「言葉の力」として提示している。我々教師には、その「言葉の力」を、国語科単元学習を通じて児童に身に付けさせ、活用させていくことが求められている。そして、各単元で身に付けた「言葉の力」が児童の中で、一年を通じ、そして学年を超えて蓄積されていくことが重要である。そこで、昨年度より目指す児童像を『「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子』と改めた。昨年度の「言葉の力」の積み重ねを子どもに実感させると共に、新たな力の蓄積を積む一年としたい。また、昨年度に引き続き、子どもが主体となって学べる授業づくりを目指していくことを意識していくためにも、研究テーマを「対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり」とし、コロナ禍の制限がある中ではあるが、一層研究を進めていきたい。

## 「言葉の力」を積み重ねる

「言葉の力」とは、単元を通じ、児童に身につけさせた国語科の能力。国語力は、この能力の積み重ねにより伸びていく。そのため、系統立てられた「言葉の力」のつながりを教師・子どもが意識して学習に臨みたい。新教科書は、そのつながりを重視している。

## 学びを豊かに表現できる → 単元で学んだことを生かす

- ・一人一人が自分の思いを言語を通じ的確に分かりやすく表現する。「言葉の力」が活かせる単元設定が重要。
- ・伝えたいことが相手によく分かるように、工夫して話す。
- ・自分の思いをいろいろな表現方法で書き表す。
- ・感情をこめて音読する など

## 対話による新たな気づきを大切にす

- ・友達の考えと自分の考えを比べて、類似点や相違点を見つける。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを変更・修正し、新たな考えを見つける。
- ・教師との対話によって新たな考えに気付かせ考えを深めさせる。
- ・自己内対話…過去の自分と比べ、「わかる」「できる」を実感する。自己との対話には、学びの「積み重ね」がキーとなる。

## 主体的に学ぶ ⇒ 粘り強く学習・自らの学習を調整

- ・学習の流れやゴールを児童と共有し、見通しをもつ。何を学ぶか「めあて」をしっかりともつ。
- ・自己調整の場…めあてを立てる。ふりかえる。
- ・児童の興味、意欲を高める単元導入の工夫
- ・二次の学習が生かせる三次のゴールの設定
- ・自分の意見をきちんともつための一人学びの確保

### Ⅲ 本年度の研究

#### 1 重点取組

(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの推進

##### 「主体的な学びで深める」

○付きたい力を明確にし、児童が主体的に取り組める意図的な単元づくり…図1-①

・ 付きたい力を明確にし、「児童が、自分の思いを言語化したくなる(話したい、書きたいと思う)場とするため」の単元づくりを考えていく。三次で取り組む活動や成果物のイメージをもたせることで単元のゴールを明確に示し、より興味をもたせ学習に臨ませる。

○「わたしなり」の考えをつくる場の設定＝一人学び…図1-②

・ 「話し合い」をするためには、まず、自分の思いをもたなければならない。授業の中で「一人学び」の方法を知らせ、「一人学び」の場を保証することで、自分の思いを生み出していく時間を確保する。その際、「一人学び」する視点を明確にし、本時の学習のめあて・目標に迫るための課題を与えることが重要である。

○本時や単元全体の学びを振り返る場の設定…図1-④

・ 主体的な学びに欠かせないことが「自らの学習を調整する力」(自己調整)である。自らの学習を振り返ることで、学びをメタ化することができる。そして、次の学びにつなげていく。そこに、教師の評価を加えることで、学びの理解度を、子どもが実感できるようにしていく。

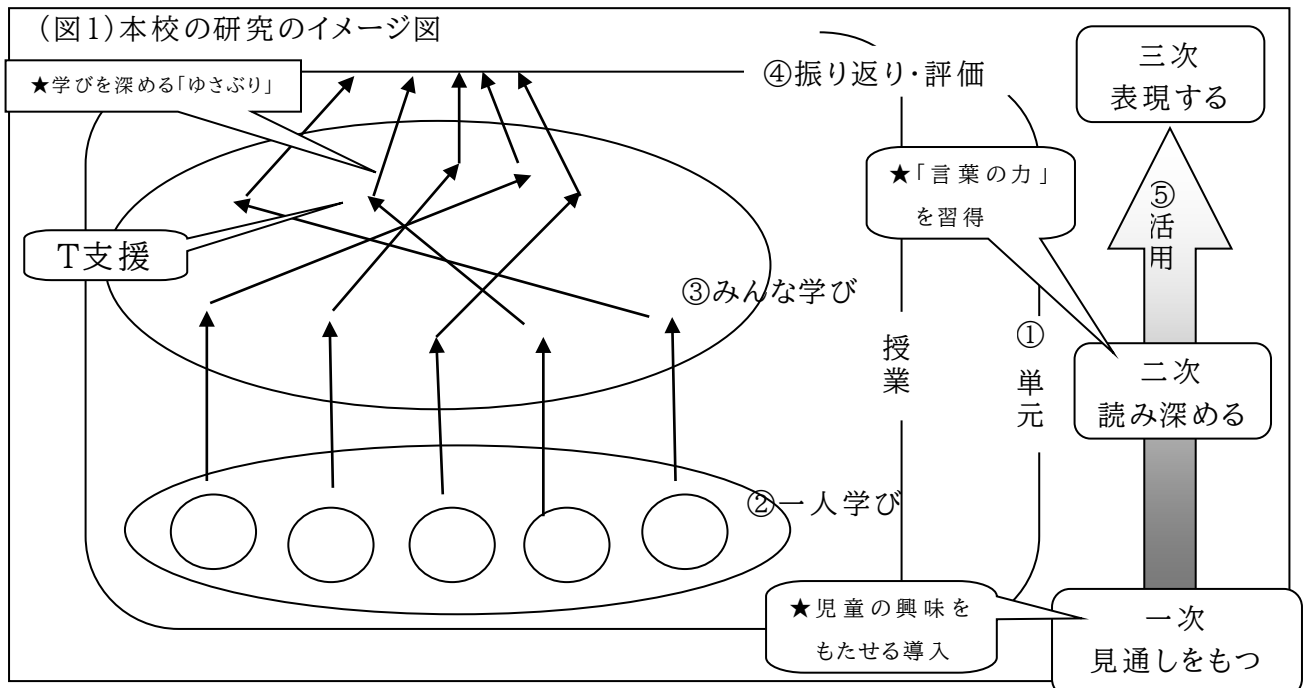
○学びの過程で得た力を活かす＝自分の思いや考えを広げ深める学習活動…図1-⑤

・ 「単元のゴール」に向け学んできた力を活かせる三次を設定する。言語活動(音読発表会や朗読劇、図鑑づくり、感想文、意見文、解説文、推薦文など)への取組を意識させ続けるための二次での学習過程の工夫が重要である。

##### 「対話的な学びで深める」

○仲間と交流し、深め合う場の設定＝みんな学びと教師の支援…図1-③

・ 一時間の授業の中で、「わたしなり」の考え(読み)をもち、それを交流させる場を設定する。全員の考えを交流する場であり、単なる「一人学び発表会」になってはいけない。友だちの意見を聞き、類似点や相違点を見つけ、意見をつなげていく。また、新たな気づきを効果的に生み出すために、教師が「授業のヤマ」を意識し、児童の思考を深める契機として意図的に「ゆさぶり」かける。どのような「ゆさぶり」が効果的であるか研修していく。



## (2) 身に付けるべき「言葉の力」のつながりを共有し、積み重ねていく

### ○単元導入時の「言葉の力」のつながりを確認

・ 単元の第一次において、これからどのような「言葉の力」について学ぶのか、さらには、これまで学んできた「言葉の力」と、どのようにつながっているのか子どもと共有する時間をもつ。この活動により、「言葉の力」が、学期・学年が進むごとに徐々にレベルアップしていること、学びが連続していることを子ども自身が実感できる。前学年時に、どんな言語活動をしたかを想起させるのでは無く、言語活動を行うために、何が大切であったかを想起させる。それが、「言葉の力」を想起させるということである。教師も前学年との付けたい「言葉の力」のちがいを  
知ることにより、指導内容がより焦点化されると考えられる。

### (例「文学(音読)」に関する「言葉の力」のつながり)

2年「お話を音読する」⇒3年「様子を思いうかべて音読する」⇒4年「想像したことを音読で表す」⇒  
5年「聞き手に伝わるように音読をする」⇒6年「聞き手に伝わるように朗読する」

### (例「説明文(読解の基礎)」に関する「言葉の力」のつながり)

2年「説明の順序」⇒3年「段落の内容をとらえる」⇒4年「文章のまとまりをとらえる」⇒5年「要旨をとらえる」⇒6年「論の進め方をとらえる」

### ○「言葉の力」が身に付く単元づくり

- ・ 教材毎に設定されている「言葉の力」を身に付けさせるための単元を組む。「教材を教える」のではなく、「教材で学ぶ」の意識である。「言葉の力」をツールとし、身に付けた力を活用しながら、学びの伸びを実感できる単元設定(ゴール)を心がけていく。算数同様、学習内容の漏れは、次単元、次学年の学習に影響が出る。「読み方」「書き方」「話し方・聞き方」など、その学年の「言葉の力」を確実に学習し、可能な限り定着させた上で、進級させたい。



単元を山登りに例えると…

頂上は単元のゴール。ストックは、その単元に適した「言葉の力」。山の頂上でストックを手に入れても、役立たない。山に登る前にストックを渡すと、どんどん使い慣れていく。単元の導入にて、「言葉の力」を共有し、意識させながら単元に取り組むことで、「言葉の力」が役立つという実感が沸き、身に付けたいという気持ちが高まる。二次までに意識してきた「言葉の力」を、自然と生かせる三次の設定が、求められてくる。その山に、適したストックを渡し、ストックの有り難みを感じられるようにしてあげることが大事。成果物を書いたから「言葉の力」が身に付くのではなく、「言葉の力」が身に付いてきたから、「成果物」が書けるようになる。こういう単元づくりを理想としていきたい。

## (3) 基礎学力・表現力向上のための取組

- 音読資料集「こえにだして」を中心に、音読暗唱活動を活発にし、音声表現に対する抵抗を軽減する。
- 話型をもとにした「根拠」「意見」「理由」の3点をそろえて話すことの意識付けをする。  
(「根拠」や「理由」をめぐって交流や話し合いを深めることができる。)
- 「学習&本読みカード」を作成する。一日の学習を振り返ることで「書く力」を、日々養っていく。また、家庭での本読みの習慣を保護者と共に作っていく。継続は力である。
- 原稿用紙の書き方を、校内で統一し、6年間を通じて、定期的かつ継続的に、書き方を学ばせていく。また、作文を書くための技能を、学年に応じ、系統立てて指導していく。

## (4) ICT機器(タブレット等)を活用した授業づくりの構想

- 「GIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想」によって配備された一人一台のタブレット端末を、国語科授業のどのような場面で活用できるのか、その可能性を、実際の活用例などを紹介し合うことで、ICT活用を推進していく。

## (5) 「豊かな表現」の手助けになる言語環境の充実

- 学級文庫、図書室を充実させる。(司書と連携、市立図書館の活用。)
- 児童作品を掲示し全校生に広める。(児童作品掲示板)
- 「言葉・漢字」などに関する掲示を充実させる。学年に応じた掲示内容で作成する。

## 2 学び合う単元のイメージ

	時	学習活動	
一 つかむ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習の見通しをもつ。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の力」を共有し、身に付けるための課題設定</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ≪単元の見通しと意欲づけ≫                      ・学習への興味が高まる導入                      ・「言葉の力」の共有                      ・どの子も見通しがもてる課題設定                      教師のモデルなど                 </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しと学習計画「学習のゴール」の設定(目的の共有)</li> <li>・教材と出会う</li> <li>・音読 ・新出漢字練習</li> <li>・意味調べ ・初発の感想</li> <li>・あらすじをとらえる</li> <li>・課題づくり など</li> </ul>	
二 取り組む	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教材に取り組む</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     一人学びの方法を知らせる                      学習のてびき・教師のモデル                 </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたし」なりの考えをつくる 一人学び</li> <li>・ワークシート、書き込み、ノート</li> <li>○仲間と交流し、深め合う</li> <li>・～についての話し合い</li> <li>ペア・グループ・全体</li> <li>○「わたし」の考えを見つめ直す</li> <li>・～を書き直す</li> <li>・自分の読みの修正や発見</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     机間指導におけるはたらきかけ                      ・個々の考えの把握                      ・つまづきへの対処・支援                 </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学びを深めるための意図的な                      「ゆきぶり」や「焦点化」など                 </div>
三 表現する・振り返る	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活用する</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自らの変容(深まり)や                      成長を自覚させる                 </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたし」の考えをまとめる。</li> <li>○「言葉の力」を活用</li> <li>○表現する。</li> <li>・台本を仕上げる。</li> <li>・本の帯作り</li> <li>・パンフレット作り</li> <li>・音読発表会</li> <li>二次までの学習を活かす など</li> <li>○振り返り</li> <li>・自己評価</li> <li>・「言葉の力」を振り返る</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     机間指導におけるはたらきかけ                      ・個々の考えの把握                      ・つまづきへの対処・支援                 </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自らの変容(深まり)や                      成長を自覚させる                 </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習の方法・進め方などについても                      振り返らせる。                 </div>

### 3 基本的な学習過程(一単位時間)

児童の活動	教師の働きかけ
<p>1 導入 ・課題をつかむ</p> <p>2 自分の考えを書き表す 〈一人学び・グループ学び〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題について自分の考えをもつ 〈主体的な学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート ・ワークシート</li> <li>・教科書への書き込み</li> </ul> </div> <p>3 全員で考えを交流する 〈みんな学び〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>意見を出し合い、考えを深める 〈対話的な学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や文にこだわって話す</li> <li>・話型の活用〈意見・根拠・理由〉</li> <li>・「〇〇さんと似ていて～」</li> <li>・「〇〇さんと少し違って～」</li> <li>・「〇〇さんにつなげて～」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>教師のゆさぶり</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな気づきの交流</li> <li>・考えを深める</li> </ul> </div> <p>4 ふりかえり・まとめ ・振り返りを自分の言葉で書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の確認</li> <li>○前時の学習の想起</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○机間指導における働きかけ</li> <li>○個別の支援</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ学びの工夫(同質・異質)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単なる発表会にならないよう留意</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思考の質を高める教師の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造的な板書</li> <li>・机間指導</li> <li>・評価言・リボイス</li> <li>・主発問・補助発問の使い分け</li> <li>・少人数で話し合わせるタイミング (状況により2～4人組)</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> <p>議論を焦点化し、 考えを深める契機</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p> <p>対話的で 深い学びの実現</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・焦点化</li> <li>・複数の考えを比べる</li> <li>・矛盾や対立の取り上げ</li> <li>・新たな視点の提示 など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学びのメタ化</li> <li>○自分の考えがどう変化したか振り返らせる</li> <li>○友だちの意見と比較させる</li> <li>○今日の学びが三次にどうつながるか考えさせる。</li> </ul>

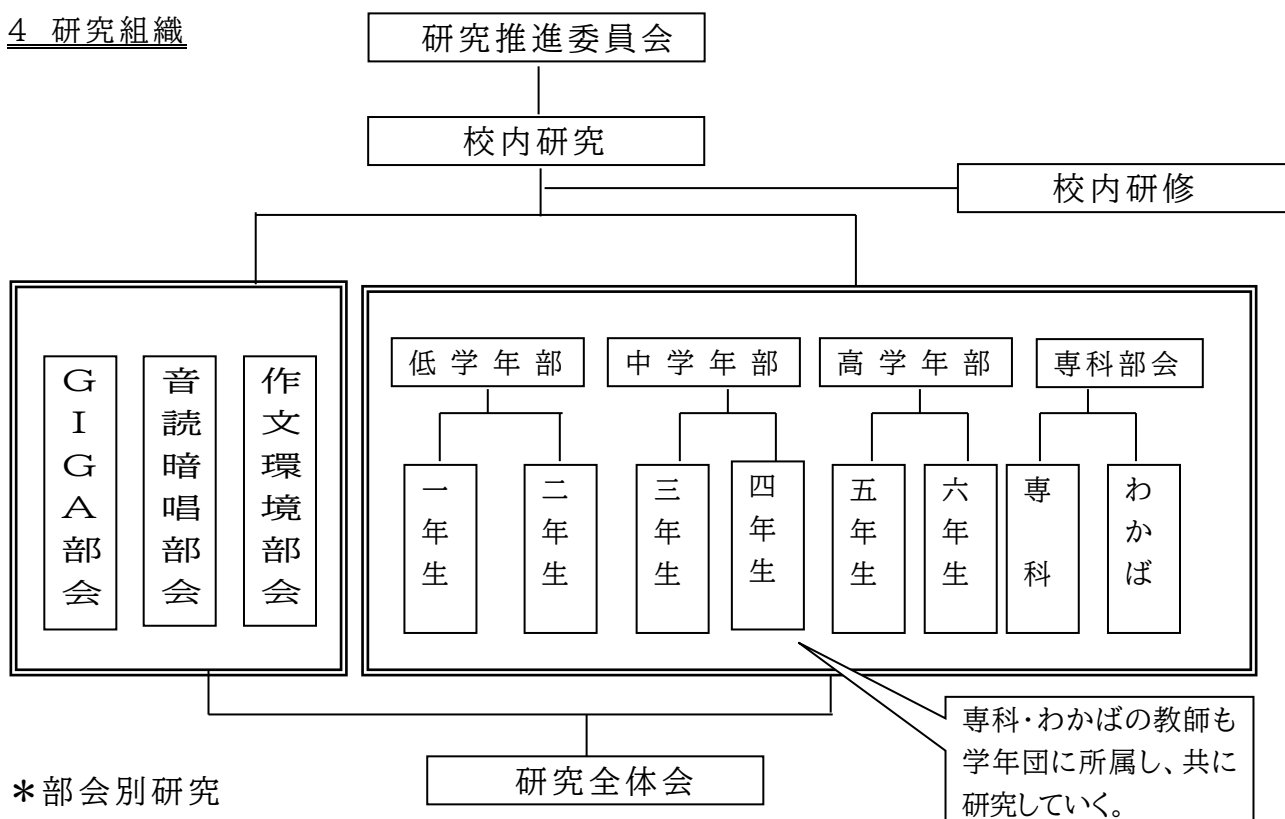
〈参考・引用文献〉

『『活用』の授業で鍛える国語学力』

～単元・本時デザインの具体的方法～(2014)勝見健史著(文溪堂)

◎一単位時間の基本的な学習過程を基に、みんなで話し合う前にグループ(同質・異質)での話し合いも取り入れ学びが深まるような学習過程を考えていきたい。

#### 4 研究組織



\*部会別研究

### ①作文環境部会

- ・原稿用紙の使い方を統一し、定期的・継続的に指導できるよう中心となり動く。
- ・作文をする上での、基本的な文法を系統立てて指導できるよう中心となり動く。
- ・教室の話型掲示物の管理
- ・掲示板の言語環境作り・・・児童作品、詩などの掲示(特に三次での表現作品)
- ・学年に応じた「ことば」に関する掲示・・・学期に一回程度の頻度で掲示内容を刷新

### ②音読暗唱部会

- ・放送音読の企画、運営、代表児童への音読(朗読)指導を学年で割り振る。
- ・「誓いの言葉・がんばったこと」「命の作文」の音読指導
- ・暗唱教材「声に出して」の活用方法の検討、推進

### ③GIGA 部会

- ・国語科学習におけるタブレット等、ICT機器の活用方法を模索
- ・実践例を交流、紹介することによる普及活動
- ・年間に1～2回程度の実践報告会(予定)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科わかば
① 作文環境	穴田	北良	能島	下田	松原	○山中	山口 赤松
② 音読暗唱	田村	船倉	平郡	○杉浦	佐伯	倉成	井場 中前
③ GIGA部会	妙見	岡崎	高田	横山	○大月	内田 福井	入野 河本

## 5 研究計画

≪校内研究会≫

- 全体研、事前研、事後研、学年層研、学年研、各部会など
- 授業研究は、「話し合い活動」に焦点をあて思考を深めるための指導・支援のあり方について交流し、授業力の向上を目指す。
- 「読む」の領域に限らず、「書く」「話す・聞く」の領域での研究授業を可能とする。ただし、公開場面には「話し合いの場」があることを条件とする。

<具体的な取組について>

(1) 昨年度の成果をもとに、全員が公開授業を行う。

- ① 全体研究授業は3学年が行う。全員参観とする。事前研究会の前に学年層で事前研究会を必ず設ける。
- ② 学年層研究授業は、全体研に該当しなかった学年で3つ行う。事前・事後研究会は、学年層で行う。日程については、授業者と研究推進委員会で調整する。
- ③ ①②以外の方は、学年内公開授業とする。授業を行う日を決め、前日までに全員に指導案を配布する。他学年の参観は自由とするが、同学年は必ず参観する。(授業後速やかに事後研を行う)
- ④ 学年の代表となる研究授業の検討に専科・わかばの教師が分かれて入ることとする。検討に加わる頻度は、学年にある程度任せることとする。日程等の連絡調整についても学年に一任する。専科わかばの教師の研究授業には、学年団の教師も検討に加わり、相互に関われるようにしていく。

(2) 公開授業の形態について

児童一人一人が思いや考えをもつこと、それを表現し合い思考を深めるための教師の支援について重点的に取り組む。完成した表現を見合う場面ではなく、一人一人が思いや考えをもつための場をふくめ、「ペアでの話し合い」「全体での話し合い」など思いや考えを集団で練り合う場面、高め合う場面を中心に授業研究し、教師の指導・支援のあり方を中心に事後研を進めていきたいと考える。

(3) 授業研究会の持ち方について

- ① 全体研究授業の事前研究会・事後研究会は全体研究会で行う。  
その他は学年層部会か学年で行う。日程や会場、記録係は研究推進委員が中心となって決める。
- ② 指導案は、原則として授業公開日の前日までに全員配布する。  
ただし、全体授業研究会指導案は事前研究会の前日までに配布し、検討後修正して完成したものを講師に送付する。修正した指導案は、主な変更箇所を全体に共有できるよう配慮する。
- ③ 全体研・学年層研は授業者の同学年が基本的に授業記録をとる。
- ④ 事前・事後研究会の司会、記録は原則として研究推進委員が行う。
- ⑤ 事前・事後研究会記録は、研究推進委員が「研推だより」にまとめ全員に配布する。
- ⑥ 公開授業を参観後、参観カードを書き、授業者に渡す。
- ⑦ 年度末、全体授業研究会・学年層授業研究会以外の指導案は冊子にのせないで各自で保管・整理しておく。
- ⑧ 学年研究は、指導案作りからを、研究と捉え、可能な限り一人一単元の考えのもと、指導案を作成し、授業に臨むようにする。学年のメンバーは、互いに相談のもと、指導案をよりよいものへとする。また、仮に同一教材であっても、単元構想等、学級の実態に合わせ、自身で単元を組み立てる。ただし、学年によって考慮が必要な場合は、認める。